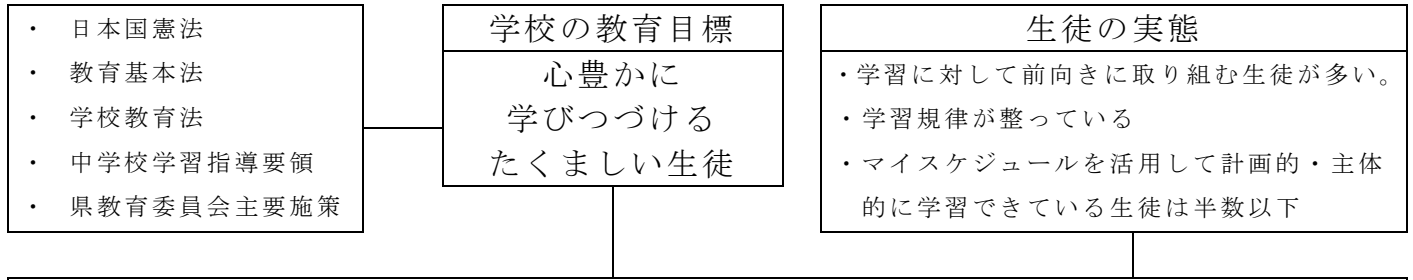


学力向上推進計画

学力向上推進計画の全体構想図



学力向上推進の目標

評価を生かした学習指導による学力向上の取り組みを推進する

前年度の成果と課題

成果	<p>(1) 1分前黙想・S J Y T「三和中授業スタイル」の共通実践で、学習規律が整っている。</p> <p>(2) 毎週の教科会の充実により、日々の授業改善につなげることができた。</p> <p>(3) 学力向上月間では教科担任を中心に全職員で朝学習の取り組みを行い、学力向上対策ができた。</p>
課題	<p>(1) 教師主導の授業から生徒主体の授業への変換。</p> <p>(2) マイスケジュールを活用した計画的な学習の推進ができていない生徒が半数以上いる。</p> <p>(3) 教科の実践報告会を実施できなかった。全体で共有する場を設定し互いに学びを深めていきたい。</p>

本年度の重点目標

- (1) タブレットを活用した授業展開により、学習の細かな見取りやフィードバック。
- (2) 県の学力向上推進プロジェクトⅡの理解と取り組み内容の周知を図り、各教科の取組目標を明確化する。
- (3) 各種調査結果の分析結果の活用を踏まえた取り組み（授業改善や補習）を行う。
- (4) 「指導の改善に生かす評価・生徒の学習意欲を高める評価」の実践(教科会の充実)。

具体的な取り組み内容

(1) 三和中授業スタイルの徹底	<p>① 単元の指導計画に基づいた授業計画(週案)を作成する</p> <p>② 生徒の実態に基づいた指導目標を示し、めあてと正対したまとめ・振り返りの実施</p>
(2) 学力向上年間サイクルの実施	<p>① 学力向上年間サイクルによって計画的な取り組みを実践する</p> <p>② 各教科シラバスを作成し、P D C Aサイクルの見える化・共有を図る。</p>
(3) 学力調査やテストの結果分析と活用	<p>① 小テストや単元テストの結果をもとに個への手立てを講じる。</p> <p>② 各種調査の結果を分析し、授業改善や補習等学力向上の取り組みに活用する。</p>
(4) めざす授業像の共有	<p>① 「他者と関わりながら、課題の解決に向かい『問い』が生まれる授業」をめざす</p> <p>② 主体的・対話的で深い学びのある授業づくり ③ 評価の工夫</p>
(5) 教材研究の充実	<p>① 「教科研究ツール」の活用 ② 各種資料の分析、活用 ③ 学年会・教科会の充実</p> <p>④ 研究会への参加 ⑤ 一人一授業 ⑥ 各教科取組の共有(実践状況の報告会年3回)</p>
(6) 学習を支える力の育成	<p>① 規範意識・マナーの向上 ② 学習環境の充実 ③ 読書活動の充実 ④ 家庭学習の習慣化</p> <p>⑤ 部活動の充実と適正化 ⑥ 生活リズムの確立 ⑦ 対話の充実 ⑧ 体験活動の充実</p>
(7) トリプルスリーの推進	<p>① 漢検・数検・英検等の各種検定試験に挑戦させ、意欲的な学習を促進する</p> <p>② 3年修了までにいずれかの検定で3級以上取得の生徒50%以上を目指す</p>

1 目標

評価を生かした学習指導による学力向上の取り組みを推進する

2 昨年度の成果と課題

<成果>

- (1) 1分前黙想やS J Y T(しっかり聴く・じっくり考える・要点をまとめる・丁寧に話す)を共通実践できており、学習規律が整い学習に向かう姿勢がよい。
- (2) 毎週の教科会を確実に実施することで、教科で学び合い授業改善につなげることができた。
- (3) 学力向上月間に、教科担任を中心に全職員で朝学習の取り組みを行い、既習内容の復習や授業と連動した小テスト等を実施することができた。

<課題>

- (1) 教師主導の授業から生徒が主体的に学習に取り組む授業スタイルへの転換で、生徒の自学力・考える力を育てていきたい。
- (2) 自主的・計画的な学習ができるようにマイスケジュールの活用を推進しているが、上手く活用できている生徒は半数以下である。マイスケジュールを活用し計画的な学習ができるように各教科で声掛けをしていきたい。うまく活用できてない生徒に対して丁寧な指導が必要である。
- (3) 各教科の取組の共有(実践状況報告会を年3回)を予定していたが実施できなかった。授業の視点や「指導と評価の一体化」の各教科の取組を全体で共有し学びを深めていきたい。

3 方針

- (1) 「学力向上推進プロジェクトⅡ」及び地区や市の学力向上推進協議会の方針を踏まえて推進する。
- (2) 校内研修テーマ「主体的・対話的で深い学びを実現し、学習や指導の改善に生かす評価の工夫」を意識した取組を行う。
- (3) 学力向上年間サイクルに基づいて職員会議、校内研修会、学年会、教科会で取り組み事項の検討、推進を行う。
- (4) 教科会を充実させ、指導形態の工夫やICTの活用などにより授業改善を図る。
- (5) 各種調査結果(全国学力学習状況調査、県学力到達度調査、市学力調査、Webテスト、学校評価、学習実態調査など)を分析し、学力向上を推進する。
- (6) 国立教育政策研究所の「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」や県の「『問い』が生まれる授業サポートガイド」「指導の努力点」「授業における基本事項」を活用し、実践的な指導を通して生徒に達成感や充実感を味わわせる。
- (7) 家庭と連携し、家庭学習の習慣化や読書活動の啓発を行う。
- (8) 地域人材を活用し、効果的な学習が展開できるようにする。

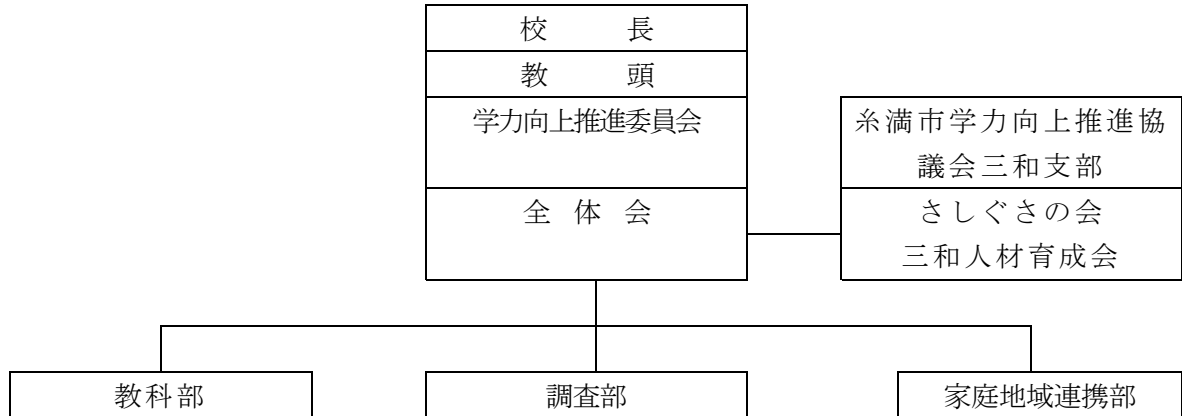
4 重点目標

- (1) 「三和中授業スタイル」(指導と評価の一体化、「めあて」と「まとめ」「振り返り」の実施。〈しっかり聴く、じっくり考える、要点をまとめる、丁寧に話す〉を意識した授業展開)の実践。
- (2) 県の学力向上推進プロジェクトⅡの理解と取り組み内容の周知を図り、各教科の取組目標を明確化する。生徒指導の3つのポイントを意識した授業を展開する。
- (3) 各種調査結果分析を活用した取り組み(授業改善や補習)を行う。
- (4) 「指導の改善に生かす評価・生徒の学習意欲を高める評価」の実践(教科会の充実)。

5 取り組み内容

- (1) 三和中学校授業スタイルの徹底（「指導と評価の一体化」、「めあて」と「まとめ」「振り返り」の実施）
- (2) 学力向上年間サイクルの実施
- (3) 各種学力調査やテストの結果分析と活用
- (4) めざす授業像の共有
- (5) 教材研究の充実
- (6) 学習を支える力の育成
- (7) トリプルスリー（漢検・数検・英検）の推進

6 学力向上推進体制及び組織図



各部会	取組の内容	担当
学力向上推進委員会	・学力向上推進に関する企画・立案	校長・教頭・学推主任 教務主任・各学年主任
全体会	・学力向上推進の全体計画作成・各部の連絡調整・協議 ・学習を支える力を育む取り組みの推進 (規範意識・マナーの向上・学習環境の充実等)	学推主任・教務主任 全職員
教科部	・他者と関わりながら、課題の解決に向かい「問い」が生まれる授業の工夫 ・指導と評価の一体化 ・「確かな学力」の向上を図るための授業改善 ・一人一授業の実施	各教科主任 各教科会
調査部	学校評価の調査・考察(7月・12月)	学推主任・各学年主任 集計業務は副担任・教頭
家庭地域連携部	地域への啓発 地域人材活用の依頼等	各学年主任・教頭 教務主任・PTA役員

7 具体的取組

(1) 三和中学校授業スタイルの徹底

① 授業に臨むにあたって

- a 単元の指導計画に基づいた授業計画(週案)の作成。(指導と評価の一体化)
- b 生徒の実態に基づいた指導目標(めあて)を明確化し、めあてと正対したまとめ・振り返りを意識した授業構想を練る。

① 授業展開

過程	共通実践事項(生徒)	共通実践(教師)
開始	(正副級長が入室を促す) ○チャイム1分前着席・黙想 ○チャイムで(姿勢を正して)挨拶 級長:正座(全員:はい) 礼(お願いします)	○1分前着席を指導 1分前着席(黙想)・3秒礼を徹底 ・語先後礼 ・3秒礼
授業展開	○既習の知識・技能を活用する しっかり聴く じっくり考える 要点をまとめる 丁寧に話す ○学び合い高め合う姿勢 ○認め合い支え合う姿勢	○「問い」を引き出す課題の提示・めあての提示 ・話し手に注目させてから話す。 ・ねらいに迫る意図的・計画的な発問 思考を広げ、深める発問の工夫 考える時間の設定 ・生徒自ら要点をまとめる工夫 ・丁寧な言葉遣い、対話による深い学び 全ての生徒にOutputの場面設定 ○まとめを引き出し、提示
まとめ	○振り返り ○姿勢を正して挨拶 副級長:正座(全員:はい) 礼(ありがとうございました)	○「振り返り」をシェア ○チャイムと同時に終了する

(2) 学力向上年間サイクルの実施

月	月間及び取組	取組内容	学力向上推進室・島尻教育事務所の主な取組
通年	〈三和中授業スタイル〉 〈家庭学習〉 〈教科会〉 〈一人一授業〉 〈各種検定〉	<input type="checkbox"/> 学習に関する主な取り組み事項をそろえる <input type="checkbox"/> マイスケジュールを活用し、計画的に学習を進める <input type="checkbox"/> 調査結果の分析や授業の反省を元に授業改善を行う <input type="checkbox"/> 研究授業を通して授業改善・授業力の向上を図る <input type="checkbox"/> 検定を学期に1回程度実施・受検の推奨	* 学びのたしかめ 各教科、子どもが学習したことを実感できる評価を!
4月	〈学力向上月間〉	<input type="checkbox"/> 家庭学習の取組方針を(学推が準備、各学年で)説明 <input type="checkbox"/> 全国学調に向けた朝学習 <input type="checkbox"/> 既習事項の定着を確認	* 地区学力向上強化月間(4月)
5月	〈全国学力学習状況調査〉	<input type="checkbox"/> 採点・入力・結果分析(目標:県平均以上) <input type="checkbox"/> 各教科実践状況報告会①(計画)	
6月	〈学びのたしかめ〉	<input type="checkbox"/> 採点・入力・結果分析(目標:県平均以上)	
夏休	〈夏休み期間中〉	<input type="checkbox"/> 夏休みの課題 <input type="checkbox"/> サマースクールの実施 <input type="checkbox"/> 各教科実践状況報告会②(状況報告)	
10月	〈学力向上月間〉	<input type="checkbox"/> 朝学習	* 地区学力向上強化月間(9月)
冬休み	〈冬休み期間中〉	<input type="checkbox"/> 冬休みの課題(高校入試・到達度調査に向けた課題) <input type="checkbox"/> 各教科実践状況報告会③	
(R4)	〈年度のまとめ〉	<input type="checkbox"/> 年間サイクルの見直し	* 県到達度調査
1月	〈学力向上月間〉	<input type="checkbox"/> 高校入試・到達度調査・全国学力調査にむけた朝学習	
2月	〈県到達度調査〉	<input type="checkbox"/> 採点・入力・結果分析(目標:県平均以上)	
春休	〈春休み期間中〉	<input type="checkbox"/> 春休みの課題	

① 家庭学習の取り組み

- ・マイスケジュールを活用し、計画的に学習を進めることができるように指導する。
- ・生徒の自学力を高め、学習したことを実感できるような評価の仕方を教科で工夫する。
- ・1年生は年度始めに家庭学習帳とマイスケジュールを併用し、教科担任や学年職員で家庭学習の取り組み方をていねいに指導していく。(マイスケジュール指導1年～6月、2・3年4月中)

② 学力向上月間

- ・4月、10月、1～3月は、朝読書の時間に朝学習を設定する。
- ・朝学習は国数英を中心に5教科を計画し、教科担当とともに全職員で指導にあたる。
- ・各教科シラバスを作成し、PDCAサイクルの見える化・共有を図る。

(3) 各種学力調査やテストの結果分析と活用

① 小テスト・単元テストの結果をもとに個への手立てを講じる。

② 全国学力学習状況調査、県学力到達度調査、学びのたしかめ、市学力調査、学校評価、学習実態調査等の結果を学年会や教科会等で分析し、授業改善や補習、学力向上の取り組みに活用する。

(4) めざす授業像の共有「沖縄県学力向上推進5か年プラン・学力向上推進プロジェクトⅡ」

① 他者と関わりながら、課題の解決に向かい「問い」が生まれる授業(めざす授業像)

② 「教える」の視点から子供の「学び・育ち」の視点へ

③ 自己肯定感を高める個人内評価等の積極的取組(質的授業改善)

(5) 教材研究の充実

① 「教科研究ツール」の活用(教材研究ノート、板書型指導案、授業プランシート等)

② 各種資料の分析、活用(全国学力学習調査、学校教育における指導の努力点等)

③ 教科会の充実「指導の改善に生かす評価・生徒の学習意欲を高める評価」で授業力の向上

④ 1学期中に一人一公開授業

⑤ 各教科の取組を共有(実践状況報告会を年3回実施)

(6) 学習を支える力の育成

① 規範意識・マナーの向上

- ・授業の準備後、授業開始1分前黙想、チャイムと同時に授業を開始させる。
- ・話す・聴く・読む・書く態度を身に付けさせる。

② 学習環境の充実

- ・座席や掲示物の配置の工夫等の学習に適した環境を整える。
- ・個々の机の中やロッカーの整理整頓を促し、学習環境を整える。

③ 読書活動の充実

- ・朝読書を通して深い思考力を持つ情操豊かな生徒の育成を図る。
- ・家庭における読書活動を充実させる。(毎月第3日曜日 ファミリー読書)

④ 家庭学習の習慣化

- ・授業と連動した課題を与え、家庭学習の習慣化を図る。

⑤ 部活動の充実と適正化

- ・部活動への加入促進と活動時間等の適正化を図る・学習に対する責任感や連帯感を向上させる。

⑥ 生活リズムの確立

- ・基本的な生活習慣の形成のために「早寝・早起き・朝ごはん・徒歩登校」を奨励する。

⑦ 対話の充実

- ・家庭と連携を図り、家庭での対話を中心に夢や希望を育む。

⑧ 体験活動の充実

- ・地域の教育活動及び行事への参加を奨励する。

(7) トリプルスリーの推進(漢検、数検、英検の3つにおいて3級以上取得を奨励)

- ・3年修了までに漢検・数検・英検のいずれかで3級以上取得の生徒50%以上を目指し、各学年で計画的な学習(受検)を奨励する。